

審議入りを許さず 派遣改悪法案を廃案に！

直接雇用が原則！を確認しよう
4月23日安倍政権の雇用破壊に反対する共同アクションによる学習決起集会が160名程で開かれました。法案は国会に提出されており、衆議院で6月に審議入りか？という状況です。安倍政権は今国会で成立させ、来年年4月からの施行を目指しています。

学習会では萬井龍谷大名誉教授が「安倍政権・雇用規制緩和と派遣法改悪の焦点」と題して講演を行いました。

この法案が改定されてしまうと、企業は働き手を3年ごとに「人」を代えれば、どんな仕事にも、ずっと派遣を充てられるようになり、企業は多くの業務を派遣労働に置き換えるようになるでしょう。99年に業務規制が取っ払われ製造業も解禁となり派遣が拡大し、08年リーマンショック時に派遣切りが多かった企業でなされました。今回派遣受け入れ期間の制限規制が実質的に取っ払われます。派遣労働の間接雇用を直接雇用への転換義務を派遣先企業に負わせていくことこそ必要なのに、全く真逆な法案内容です。派遣先に雇用責任がなく、派遣先と派遣元の契約解除で労働者は解雇され、雇用の不安定な労働者が増えるばかりです。派遣期間

制限がなかった専門的業務26種の区分もなく、他の派遣業務と一律に「人単位」では3年限度となります。今までは受け入れ期間の制限があつて、派遣を使っていなかった企業も、事実上の期間制限撤廃によって使いやすくなった派遣労働を増やして正社員は雇用しなくなるでしょう。

政府・財界は雇用流動化への大転換をこの派遣法改定から行おうとしています。派遣労働は「臨時的・一時的な業務に限定」の大原則を崩してはなりません。

講師の萬井（よるい）隆令氏は、「今回の法改定は従来の法改正と性格が異なるもので、直接雇用の原則を放棄し、労働者の権利を尊重するようなことは考えない、という公然たる宣言と受け止める必要がある」と述べられました。「直接雇用が原則だ！」と声

静岡県浜松市 浜松町づくり公社の 雇止事件和解解決！

4月25日静岡県地裁浜松支部で浜松町づくり公社から5度目の解雇をされた岡本さんの事件の証人尋問があり傍聴しました。傍聴者は50名近く、16人があふれ交代での傍聴に。岡本さんの証言はとてつきつちりとして、説得力もあり反対尋問はほとんど意味をなさず。次の公社理事長の主尋問は筋書き通りでしたが、原告側による反対尋問は鋭く、岡本さんを解雇した時点ですでに1億円の経費削減は達成されていたことが浮き彫りになりました。

特筆すべきは裁判官の態度の悪さ。斜めに座り、証言をメモするでもなく、書証を確認するでもなく、若いのに高圧的でした。証人調べ後即日結審、7月25日判決を決めたあとに和解勧告となり、話し



5月9日からJAL原告団は国土交通省前で解雇撤回・職場復帰を求めて座り込み行動を行った。判決は延期で6月3日（客乗）、6月5日（パイロット）。

を大きくし、この法案を廃案にしよう。柚木康子さんが全労協幹事として「女性の非正規率は6割に及んでいる、女性運動の問題としても取り組みをしていこう」と訴えました。派遣法改悪が現実となれば、女性は非正規が8割にもなりかねません。衆参の厚生労働委員会所属議員への雇用破壊に反対する要請と5月9日昼に衆議院第二議員会館前の座り込みの行動提起がありました。是非参加を！（近藤）

合いが始まりました。報告集会上に30分余り遅れて戻ってきた岡本さんと弁護士からこれまでの和解の話し合いを上回る内容で和解が成立したことが報告されました。公社理事会の確認を得て、5月19日に調印のことです。

定年を1年半後にした理不尽な解雇に異議申し立てを行い、様々な証拠を集めて証人尋問を実現した岡本さんと応援した静岡の仲間たちの闘いに敬服！（柚木）

女性委員会学習会

2014年5月30日(金) 19:00~
全労協事務所

PARCのDVDビデオ「誰のためのTPP」と
報告を受けてみんなでTPPを考えよう



5月1日、日比谷メーデーで解雇撤回を訴えるJAL原告団

全労協全国一般東京東部労組

メトロコマース支部の女性たち

春闘スト&非正規

差別是正を求めて提訴

昨年3月18日東京メトロの地下鉄売店で販売員として働く非正規の女性たちがストに立ちあがった。全国一般東京東部労組メトロコマース支部の女性たちだ。マスコミに報じられ、多くの共感を得た。賃金も労働条件も違うのに定年だけ65歳で同じでは生活できないと5月に定年を迎える仲間の雇止撤回を求めて闘い、半年間の延長を勝ち取った。それから1年団交は続けられたが定年延長はなく、今年3月にはもう一人が定年で失職した。

14春闘でも賃上げ・差別是正や労働条件の改善を求めて交渉したが会社はゼロ回答。そして5月1日メーデー当日、ガマンは限界と6人の組合員が1日のストに立ちあがった。

人間らしく扱ってほしい!

メトロコマースは東京メトロの100%子会社で、正社員、契約社員A、契約社員Bと区分がある。組合員たちは3カ月、半年、1年契約で働く契約社員Bで、駅売店で他の社員と同じ仕事をしてきた。しかしフルに働いて月の手取りは13万円以下、退職金もないだけでなく、退職時に1輪の花も「ご苦労さん」のひとつもなかったという。

上野駅前の東京メトロ本社ビル前の歩道橋にはスト集会開始の13時にはメーデー

私のお気に入り

「山崎まさよし」

私がここ10年はまっているのはシンガーソングライター「山崎まさよし」。「One more time One more chance」という曲が有名。又SMAPに「セロリ」を提供。スローバラードからノリノリの曲まで多彩。娘がまずファンになって以来私も虜に。メロディーはきれい、詩も素敵、心に沁みる、歌は声が良く伸びてうまい、ギターが超絶、声も心地良い。音楽について全く知らないの、世の中にはもっと凄い方がもちろんいらっしゃるでしょうが、私にとってはとっても凄いのです。又ノリノリの曲に立ち上がって体を揺らすのも何と心地良いことか。

今年2月中旬大雪の翌日に千葉館山でライブがあり、朝約60cm積雪の雪かきをして何とか最寄駅を9時に出発、会場着は18時でした。開演を18:30に遅らせてくれたのだけどそれでも更に遅れて到着の観客が結構いたと思いますが、特に終演近くになってたどり着いた人に対し何と山崎が壇上から「よう来たなー、何が聞きたい?」と声をかけたのです。そしてその観客がリクエストした曲はすでに演奏済みのものだったけれどもう1回演奏してくれたのです。その気さくで暖かい人柄にも感激。



山崎のライブはいいなー。
全石油スタンダード労組 池崎真理子

集会・デモを終えた労働者が続々と集まり、なんと280名にも。スト集会は東部労組須田書記長から午前中東京地裁へ4名の原告が労働契約法20条違反で3年間の差額として4千2百万円の損害賠償請求を提訴したと報告があった。ついで65歳で定年となった2人の組合員に支部から可愛い蘭の鉢が贈られ、当該の思いが語られた。

昨年11月で雇用が切られたSさんは「提訴に向けて勉強しました、組合に感謝です」と。新たに参加した組合員は「家族とも相談してストに参加しました」と。3月に雇用が打ち切られたKさんは「底辺で一生涯懸命働き会社を支えている

のは契約労働者、積年のすべての怒り・恨みをたたきつけて闘いたい」と。Hさんは「仕事と同じなのになぜ3つに分断するのか、65歳以降も継続雇用して欲しい」と金と金が欲しいならダブル・トリプルワークしろと言われた、裁判は負けられない」と。委員長の後呂さんは10年あまり働いても退職時にご苦労さんの一言葉もない、私たちも赤い血が流れている人間です、人らしく扱ってほしい、経営者だけで会社は成り立たない、99%が人らしく扱われるために、全国の非正規が安心して希望を持って働けるようにとも闘ってほしいと訴えた。

非正規差別を闘う裁判を応援していこう。

上野水上音楽堂に女たちの声が響いた

5月11日、福島を女性を中心にした「女たち・いのちの進行」の呼び掛けに多くの女性たちが上野水上音楽堂に集った。13時開演。舞台上に6人の女性が並ぶ。安積宇宙(うみ)さん、沖縄から駆け付けた高里鈴代、アイヌ民族の平田みゆきさん、在日韓国人の朴慶南さん、福島郡山から荒井裕子さんが次々にリレートーク。福島事故の後家族でニュージーランドに避難していた宇宙さんは若い私に発言の機会をありがとうと。郡山でも汚染がひどい地区に家があった新井さんは地震で家は半壊、立て直しはあきらめたが、行政は家を壊すなら庭の樹木も伐採しろと言った。家の取り壊し、樹木の伐採後も放射能は2.5μSvもあったが、除染はされなかったし、近くの公園は3度の除染がなされたが、何も知らされることはなかったと。

13時半すぎ、パフォーマンスライブがゼロノミクマ(緑の熊ちゃん)の司会で進行。トップは平田さんらレラの会のアイヌ舞踊、次いで古代フラ、手振りを習ってイマジンのフラダンスには会場全体が癒やされる。チンドン太鼓のこぐれみわぞうさん、壽のナビィの歌に会場も一緒に揺れた。最後は李政美さん、久しぶりの李さんの歌にうっとり。みわぞうさん、ナビィさんも一緒にフィナーレ。最後は会津磐梯山の歌にあわせて武藤さんを先頭に踊りの列ができ、ゆっくりウオークへの送り出し。

4つの団に分かれた女たちは、思い思いのメッセージを掲げ、湯島の町を歌いながら40分ほどのウオークを楽しんだ。

(柚木康子)

5月4日 東京労働者センター

安倍首相がめざす、世界で一番企業が活躍しやすい国とは、労働者には世界一働き辛い国です。

派遣法改悪による非正規雇用拡大、労働法制改悪による雇用破壊に対し、いまこそ、労働者保護をうたう憲法27・28条を守り、ストライキなど労働三権を駆使した反撃を開始しましょう。

また、「米軍はまだ占領地でもあるかのごとく傍若無人に振る舞っている」と建白書で訴え、復帰後も日本国憲法の外に置かれ続ける沖縄。

「オール沖縄」の切実な声に、本土の私たちは、こたえなければなりません。

最近の日米関係は、従属から収奪の関係に変化したと指摘されます。

「わが国のアメリカからの完全な独立」に向け手を携えて行動しましょう。

全労協・印刷労働者 中原純子